

漢詩を作る

→ 漢文に親しませるために

森野知子

1. はじめに

広島県立松永高等学校は、広島県の東部、福山市の西側に位置する。生徒数約一二〇〇人の大規模校で、福山地区の西部総合選抜（三校）のうちの一枚である。第一希望で来る生徒は少なく、そのため不本意入学であるという意識を持ったまま三年間を過ごしてしまう生徒もいくらか見られる。進路状況は、約半数が大学・短大へ進学し、残りが専門学校への進学または就職という状況である。このようなあまり意欲的でない生徒もいる状況の中で、古典、その中でも漢文の授業ということになると、生徒に自主的な学習活動をさせることは、なかなか難しい。進学を考えている生徒も、漢文は受験に関係が無いからとかいう理由で、その他の生徒も漢文がわからなくても生きていけるからとかいう理由で、生徒の気持ちは漢文から離れていつている。そのため、どうしても教師が一方的に説明しながら板書し、それを生徒は機械的に写しているという、生徒受け身の授

業になってしまいがちである。基礎的な力をつけることは出来ないかと考え、次のようなことを試みた。

2. 授業の計画と実践

I 対象 高等学校二年三クラス

(39名・39名・40名)

II 学習目標

- ① 漢文の基本構造（語順）を理解する。
- ② 返り点・送りがなの付け方になれる。
- ③ 漢詩のきまりを学習する。
- ④ 漢詩の内容を理解し、口語訳する。
- ⑤ 自分の思いをまとめて漢詩として表現する。

III 学習過程

第一時

- ① 漢文の基本構造を、プリント（資料1）で学習する。
- ② 王維の「送元二使安西」詩を音読する。（資料2）

③王維の「送元二使安西」詩の漢文の構造を確認する。
(単純な文は生徒に答えさせ、複雑な文は、教師が説明する。)

第二時

①補助プリント(漢詩の概説がしてあるもの)を参考にしながら、王維の「送元二使安西」詩について、漢詩のきまり(形式・押韻・一句の中の語のまとまり・一首の構成語を学習プリント(資料2)に書き込みながら、確認していく。

②詩中の語句の説明を聞き、学習プリントに書き込む。そうして、それを使って各自が口語訳したものを提出する。

第三時

①生徒が前時に提出した口語訳を添削して返す。口語訳例を板書し、他の口語訳を紹介したり、間違いの例も示す。

②詩の内容について、生徒に質問しながら、学習プリント(資料3)の【内容について】を完成させる。

第四時

①李白の「送友人」詩を音読する。

②李白の「送友人」詩の漢文の構造を確認する。

③李白の「送友人」詩について、漢詩のきまり(形式・押韻・一首の構成・対句)を、学習プリント(資料4)に書き込みながら、確認する。

④詩中の語句の説明を聞き、学習プリントに書き込む。そうして、それを使って各自で口語訳したものを提出する。

第五時

①生徒が前時に提出した口語訳を添削して返す。口語訳例を板書し、他の口語訳を紹介したり、間違いの例も示す。

②詩の内容について、生徒に質問しながら、学習プリント(資料5)の【内容について】を完成させる。

第六時

・漢文の基本構造を思い出して、短い漢文を作り、提出する。(今朝起きてから現在までに行ったこと、見たこと、聞いたことなど。)

第七時

①生徒が前時に提出した短作文を添削して返却。生徒は、語順・返り点・送りがなの間違っているところを確認する。

②「卒業生を送る」などのテーマで、まず現代日本語で詩を作り、それを漢詩に直す。(資料6)

条件は次のようにした。

(1)平仄・押韻は考えなくてもよい。

(2)五言絶句を基本にするが、どうしてもまともでないときは、五言または絶句にならなくてもよいことにする。

3. 結果と分析

I 概要

作品数は計一一八首であり、内訳は次のようである。

五言四句(絶句) …… 77 五言六句(絶句) …… 3首

五言八句 …… 2首 四言四句 …… 3首

四言六句 …… 1首 四言八句 …… 1首

七言四句 …… 2首 三言四句 …… 1首

四句(字数がそろわず) …… 6首

八句(字数がそろわず) …… 3首

その他 …… 7首 日本語のみ …… 12首

※「日本語のみ」とは、現代日本語で詩を作ることはできたが、それを漢文に直すことが出来なかつたものである。

II 処理の方法

生徒の全員の作品を組別に無記名でプリントし、本人の作品だけを添削したものを、それぞれ本人に返した。

III 分析

生徒の作品の中から、初めに、語順その他の間違いのなかつた作品を挙げる。(書き下し文は、生徒の付けた訓点にしたがって、こちらで付けた。)

(漢文)

(書き下し文)

① 送卒業生

山白雪 溶始 山の白雪 溶け始め

⑤ 春

春別離 季節 春の別離の季節

春光 降注来
今向自分志
君勿忘私事
勿れ
春の光 降り注ぎ来る
今 自分の志に向かふ
君 私のを忘ること

② 送卒業生

我祝卒業生 我卒業生を祝ふ
三年間共笑 三年間 共に笑ひ
三年間共苦 三年間 共に苦しむ
君達今旅立 君達今 旅立つ

③ 卒業 送先輩

祝先輩卒業 先輩の卒業を祝ふ
我幾度見汝 我幾度も汝を見る
欲先輩校章 先輩の校章を欲す
我一生不忘 我は一生忘れず

④ 送卒業生

我祝君卒業 我君の卒業を祝ふ
三年間速也 三年間は速やかなり
不忘茲思出 茲の思ひ出を忘れず
我願君旅立 我君の旅立ちを願ふ

春 出 会 季 節
 春 花 咲 季 節
 春 鳥 啼 季 節
 春は出会の季節
 春は花咲く季節
 春は鳥啼く季節

⑥ 春

春 陽 心 地 好
 処 処 聞 啼 鳥
 町 春 草 木 深
 時 經 過 若 光
 春の陽の心地好さに
 処処 啼鳥を聞く
 町 春にして草木深し
 時の経過は 光の若し

⑦ 祝卒業

松永朝雨過遺芳
 校舎青青桜色新
 勸君更尽一杯酒
 南出校門無故人
 松永の朝雨 遺芳を過し
 校舎青青として桜色新たなり
 君に勸む 更に尽くせ一杯の酒
 南のかた 校門を出づれば
 故人無からん

以上は、語順などに間違いの無い作品例であるが、これらの作品も、一句の構成「○○—○○」や、一首の構成「起承転結」などは、あまり意識されていない。また、⑥・⑦などは、すでに学習した漢詩の模倣で、語句を入れ替えただけのところもあるが、それなりに工夫されているのでよしとした。

次に生徒の作品の誤りを、(1)語順、(2)返り点・送り仮名、

(3)その他 に分けて、間違いやすい点を明らかにしようと思う。(一)内は生徒の付けた訓点にしたがってそのまま書き下したものの。その後には挙げたのは間違いの部分の訂正したものの。

(1) 語順の誤り

1. 主語十述語
 ① 小 川 流 水
 ↓ 水 流
 (小川 水は流れ)

② 旅 立 卒 業 生
 ↓ 卒 業 生 旅 立
 ③ 空 晴 流 雲
 ↓ 雲 流
 春 (空晴れて雲の流るる春)

④ 春 風 舞 桜 花
 ↓ 桜 花 舞
 (春風に桜花舞ふ)

⑤ 居 事 仲 間 達
 ↓ 仲 間 達 居 事
 (仲間達が居る事を)

2. 述語十目的語

① 卒 業 生 送
 ↓ 送 卒 業 生
 (卒業生を送る)

② 楽 思 事 楽 常
 ↓ 常 楽 楽 思 事
 (楽しく思う事を常に楽しむ)

③ 過去誤不気 (過去の誤りを気にせず)

④ 齒磨卒業生 (齒を磨け 卒業生)

⑤ 二年前我迎 (二年前 我を迎え)

⑥ 心卒業祝 (卒業を心から祝う)

⑦ 自分夢叶 (自分の夢を叶える)

⑧ 松永高校旅立 (松永高校を旅立つ)

⑨ 此桜木見上 (此の桜の木を見上げ)

⑩ 此高校卒業 (此の高校を卒業するも)

⑪ 今迄表礼意 (今迄の礼意を表す)

⑫ 我君達継後 (我 君達の後を継ぐ)

⑬ 三年間終勉強 (三年間の勉強を終え)

3. 述語+補語 (卒業する人々に伝えん)

① 卒業人々伝 (季節 春に変わる頃)

② 季節春変頃 (未来に向て頑張れ)

③ 未来向頑張 (君幸せに向かい旅立つ)

④ 君幸向旅立 (学校に行く人)

⑤ 学校行旅立 (桜の散る頃 君と逢い)

⑥ 桜散頃君逢 (未来に向かつて旅立とう)

⑦ 未来向旅立

4. 修飾・被修飾の関係 (①~⑨は連体修飾、⑩~⑬は連用修飾。)

① 時楽時失敗 (我々が入学した時)

② 我々時入学 (我は優しき語を探せず)

③ 我不探優語

④ 卒業 出 発 新 出 発 新 出 発
(卒業は新たななる出発)

⑤ 事 業 悲 事 悲 事 等
(業しき事 悲しき事など)

⑥ 今 迄 表 礼 意
(今までの礼意を表す)

⑦ 我 君 達 繼 後
(我 君たちの後を継ぐ)

⑧ 三 年 間 終 勉 強
(三年間の勉強を終え)

⑨ 卒 業 為 季 節
(卒業の季節と為る)

⑩ 元 氣 遊 汝 我
(元気に遊ぶ 汝と我)

⑪ 毎 日 学 校 通 日
(毎日 学校に通い)

⑫ 先 輩 卒 業 弥 生
(先輩は弥生に卒業す)

⑬ 君 迎 今 卒 業
(君 今 卒業を迎え)

⑭ 常 業 思 事 常 業
(業しく思う事を常に業しみ)

⑮ 一 步 大 切 步
(一步を大切に歩く)

5. 返読文字

① 老 麵 已 食 勿
(老麵のみ食する勿れ)

② 二 度 回 會 莫
(二度と回会ふこと 莫くとも)

③ 喜 怒 哀 樂 有
(喜怒哀楽 有り)

④ 頑 張 可
(頑張るべし)

⑤ 今 進 可 新 道
(今から新しい道を進むべし)

⑥ 貴 方 事 知 無
(貴方の事は知ら無いが)

⑦ 自 進 未 來 為
(自らの未来に進む為に)

⑧ 自 轉 車 止 易
(自転車 止め易し)

(2) 返り点・送り仮名

「送り仮名」については、歴史的かなづかいの間違いが見られた。これは、古文学習とも関連させて習得させる必要があると思われる。「返り点」については、「レ点」「一・二点」の使い方が理解できていないための誤りで、具体的

には次のようなものがあつた。

(3) その他

1. 「レ点」を使うべきところなのに「一・二点」を使う。

① 空晴鳥歌_一楽_二 (空晴れて鳥 楽しそうに歌ふ)

② 花君共行_二去_一 (花と君 共に去つて行く)

③ 感謝言_三込_二意_一 (感謝の意を込めて言う)

2. すべて「レ点」だけで片付ける。

① 読_レ卒業証書 (卒業証書を読む)

② 為_レ自_レ分_レ学_レ之 (自分の為に之を学ぶ)

③ 時_レ楽_レ時_レ失_レ敗 (楽しい時 失敗した時も)

④ 自_レ今_レ変_レ方_レ向 (今より方向を変ず)

⑤ 今_レ込_レ一_レ杯_レ思 (今一杯の思いを込めて)

⑥ 我_レ祝_レ卒業 (今卒業を祝う)

⑦ 君_レ勿_レ忘_レ私_レ事 (君私の事を忘れる勿れ)

3. 「一・二点」の「一」と「二」を逆にする。

① 我_レ言_レ君_レ別_二 (我 君へ別れを言ふ)

② 君_レ姿_レ消_レ学_レ校_二 (君の姿は学校から消え)

③ 祝_レ卒業_二 (卒業を祝す)

1. 熟語の構造を理解していない。

① 立_レ旅 (旅立つ) ② 発_レ飛 (飛び発つ)

③ 立_レ飛 (飛び立つ) ④ 行_レ過 (過ぎ行く)

⑤ 行_レ去 (去り行く) ⑥ 去_レ過 (過ぎ去る)

⑦ 続_レ歩 (歩み続ける) ⑧ 続_レ振 (振り続ける)

⑨ 送_レ見 (見送る)

これらの誤りはいずれも熟語を一語としてまとめて扱うことが出来ていないことによる。

2. 漢字の使い方の誤り

① 在_レ別 (別れが在る)

② 即_レ三年間立 (「在る」は「有る」の誤り。)

③ 即_レ三年間立 (即_レに三年間立つ)

④ 即_レに「は」「速やかに」の、「立つ」は「経つ」の誤り。

⑤ 近日向_二卒業式_一 (近日 卒業式を向へ)

⑥ 向_レへ「は」「迎へ」の誤り。

⑦ 春_レ来_レ度_レ思_レ出 (春が来る度 思い出す)

⑧ 「春_レ来_レ度」は「毎_二春_一来」と、しなければならぬ。

【4】今後の課題

「卒業生を送る」というテーマは、別れに詠んだ漢詩を鑑賞したところで、卒業式を前にした三学期、一学年上の先輩にお別れの気持ちを込めた漢詩を作ろうということとこちらが決めた。それぞれ先輩への様々な思いがあるだろうと想像したからだ。多くの生徒は、予想どおり「私、○○さんのことを書こう。」「えー。じゃあ私は××さん!」と、友達同士でわいわい言いながら、漢和辞典で漢字を探したり、教師に日本語で書いた詩を見せて、「これを漢文にしたらどうなるの?」と聞きにきたりして、楽しそうにやっていた。

しかし、中には、「三年生とは何の付き合いもないし、これといって送ることばもない。何を書いたらいいのか。」と言ってくる生徒もいたので、「それじゃあ、別に卒業生に限らなくてもいいから、『別れ』とか、『旅立ち』とかいうテーマで書いてみたら。」と言ったところ、「ペットとの死別」をテーマに詩を作っていた。テーマはもう少し幅を持たせるか、いくつかのテーマの中から選ばせるようにしてもよかったと思う。

また、生徒の中には「漢文なんか絶対に作れない」という者もいたので、「それならまず、自分の言いたいことを日本語にしてみよう」と言ったところ、とても漢文に改めることなど出来ないような、独特の詩を書いてきて、こちらとし

ても、それを漢文にすることなど要求できず、そのまま、提出させざるをえない状況もあった。この点でも、もつと工夫が必要であろう。例えば、今回はまず日本語で漢詩を作り、それを漢詩にという流れで進めたが、漢文訓読のきまりを復習し、漢詩のきまりについて学習した後、日本語で詩を作らずに直接に漢詩を作らせるという方法も考えられる。今回の授業で、生徒は自分の思いを表現したいという気持ちを充分に持っていることがわかった。ただ、分析にも挙げたように、漢文の基本的な問題が大変に多かった。そこで漢文入門の時期に次のような点に注意して学習させていくと良いと考えられる。

一・ 返り点にしたがって読む練習、読む順番に返り点を付ける練習を、繰り返し何度もする。それにとどまることなく、「漢文の基本構造」を学習して、書き下し文を漢文に直す練習もする。

二・ 「漢文の基本構造」を学習する時には、主語・述語・目的語・補語・修飾語が、それぞれ何であるか、どういう働きを持っているものなのか、について、生徒の理解を確認した上で学習する。

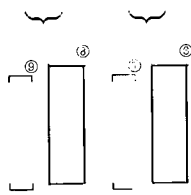
三・ 漢字の使い方の誤りをなくすために、例えば「有」と「在」の意味の違いなどを平素、授業の中でどちらかの漢字が出てきた時に、こまめに取り上げて説明する。一については、具体的に次のような練習問題が考えられる。

〔資料5〕

〔口語訳〕する。
〔内容について〕まとめる。

王様は友人の(①)を
を起して、(③)が(⑤)
を(②)が、(②)
を起して旅立つのを
を(③)の客舎で見送っ
た。

- () 句：渭城朝雨裊輕塵
- () 句：客舍青青柳色新
- () 句：勸君更盡一杯酒
- () 句：西出陽關無故人



- Q 1 作者はどこにいるか？
- Q 2 「君」は誰のことか？
- Q 3 元二はどこに行くのか？
- Q 4 冠句・手句は何を詠んだものか？(④)
- Q 5 転句・結句は何を詠んだものか？(⑦)
- Q 6 起句・承句からどんな感じがするか？(⑧)
- Q 7 転句・結句に込められた作者の思いは？(②)

(2) 送友人

送友人
青山横北郭，
白水绕东城。
此地一为别，
孤蓬万里征。
浮云游子意，
落日故人情。
挥手自兹去，
萧萧班马鸣。

形式：()
押韻：()
一句の中の語のまとまり：
○ ○ ○ ○ ○ ○
対句：

〔資料4〕

〔書き下し文〕に直す。
〔語句の説明〕を書き込む。
〔北郭〕「白水」「绕」「东城」「孤蓬」「万里征」「浮云」
〔遊子〕「意」「落日」「故人」
〔情〕「挥手」「自兹」
〔蕭蕭〕「班馬」について

〔資料5〕

〔口語訳〕する。
〔内容について〕まとめる。

青山横北郭，
白水绕东城。
此地一为别，
孤蓬万里征。
浮云游子意，
落日故人情。
挥手自兹去，
萧萧班马鸣。

- (①) 「此地」は何を指すか？
- (②) 「君」は何を指しているか？
- (③) 「孤蓬」は何を指すか？
- (④) 「遊子」は誰を指すか？
- (⑤) 「故人」は誰を指すか？
- (⑥) 第五・六句は何を表しているか？

(書き込むスペースは、ここでははすべて省略した。)

〔広島県立広島商業高等学校〕